

知財の広場

AI関連発明の出願状況調査報告書

今年7月に、特許庁から近年注目されている「AI関連発明の出願状況調査報告書」が発表されています。 詳しい内容は、下記のサイトにてご覧ください。<https://www.meti.go.jp/press/2020/07/20200727003/20200727003.html>

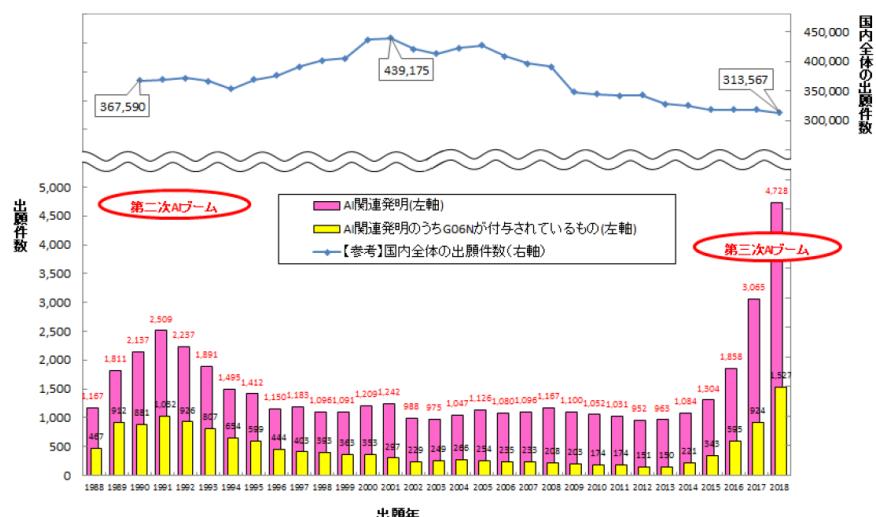
報告書の内容を見てみると、興味深い点がいくつかあります。

その一つとして、近年のAI関連発明の出願状況が第三次AIブームだそうです。出願状況などが分かるのは、もちろんのことですが、特許庁がどのように「AI関連発明」を定義し、その特許調査をどう行っているかの過程が垣間見えてきます。ある分野の技術動向分析を行うのは大変ですが、この報告書の内容は参考になると考えられます。

また、「出願人ごとのAI関連発明の主分類構成比率」からは、各出願人（企業）は自社事業に関係が深い技術分野にAIを適用していることが分かり、「AI関連発明の出願人別出願件数」では、日本電信電話株式会社、富士通株式会社、株式会社日立製作所、ファナック株式会社など、上位には大手企業が並んでいることが分かります。

「AI関連発明の特許査定率の推移」では、2016年の出願では79.6%（2016年出願全体の特許査定率は75.8%）と近年80%前後を推移しており、全体と比べて意外と特許査定率は高いことです。

特許庁のHPを見て頂き、知財情報の活用をしてみて下さい。



図：AI関連発明の国内出願件数の推移
（「AI関連発明の出願状況調査報告書（特許庁）」引用）

吉井映滋（知財ナビゲーター）

*AI（Artificial Intelligence：人工知能）